

そろばんの日

8月8日は、そろばんの日です。そろばんの玉を「ぱちぱち」と弾く音の語呂合わせではありますが、全国珠算連盟が1968年に制定したものです。

私が就職した頃の頃は、事務の仕事はそろばんが必須のアイテムでした。暫くして、事務所に手回し式のタイガー計算機（といっても若い人は全く分からないでしょうね）というのが入って来た時は、便利なものが出来たと思ったものです。もっとも、私以外の人にはそろばんの方が早いといって、誰も使用していませんでしたが。

そろばんの歴史を調べてみると、そろばんの原型は紀元前のメソポタミアで誕生したといわれています。それが中国に伝わり、現在のように珠を串刺しにする方式に進化しました。かなり現在のそろばんに近いものでしたが、中国の算盤は、ひとつの位に0～15までの数が置けるように上珠が2個、下珠が5個ありました。これは当時の中国は16両で1斤という16進法が使われていたからです。

このそろばんが日本に伝わってきたのはいつ頃なのか詳しいことは分かりませんが、今から500年程前の室町時代ともいわれています。その当時の日本は、4進法（1両は4朱、1朱は4分に換算）でしたから、そろばんもそれに合うよう上珠1個、下珠5個に改良されていきます。ますます現在のそろばんに近くなりました。

まったく現在のそろばんと同じように上珠1個、下珠4個になったのは、1935年に文部省令が出てからのことです。このそろばんは10進法の計算機ですので、メートル法の下での計算には打って付けの道具といえるでしょう。

そろばんは長い間、計算の道具として広く使われて来ましたが、やがて電卓が普及し始めるとそろばんはだんだん部屋の片隅に追いやられ、やがてコンピューターが登場すると、計算はコンピューターが自動的に処理する時代になり、電卓もほとんど使用されなくなってしまいました。

このように、世の中は便利になり、そろばんを使って計算する必要はなくなったのですが、そろばんが、計算する上で洗練された素晴らしい道具であるこ

とに変わりありません。

私も、はるか昔そろばんを習ったことがあります。その経験からすると、そろばんが上達すると共に計算力が身に付き、数字にも強くなるような気がしています。

電卓を使って計算する場合は、計算そのものは電卓がしてくれますが、そろばんの場合は、目と指と頭を使って確かに自分で計算することになります。そろばんが、事務処理の機器としてより計算の道具として根強い人気があるのも、そうしたところにあるのだと思います。

小学校の学習指導要領において、

- ・ 第3学年では、そろばんによる数の表し方について知り、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにすること、
- ・ 第4学年では、そろばんを用いて加法及び減法の計算ができるようにすること、

がそれぞれ定められています。

昔は小学校の教室に大きなそろばんが置いてあり、それで教わったものです。

そろばんは、10進法を視覚的に学ぶことが出来、また、計算力や集中力が身に付くという利点がありますので、各学校においては、もっと積極的にそろばんを習得させるべきではないでしょうか。(塾頭 吉田 洋一)